

キリストにある私たちのアイデンティティ（「使徒の働き」前回の説教の補足）

今日の聖書箇所、使徒 11 章の学びに入る前に、前回の使徒の働きシリーズ説教の最後に皆さんにお約束したことについて手短にお話したいと思います。

前回私は、イエス・キリストにあるアイデンティティは、私たちの国籍に基づくアイデンティティよりはるかに重要だとお話しました。

人間としての肉体的アイデンティティは保持したままですが、私たちの霊的なアイデンティティがさらに大切だということです。

日本人の人がクリスチャンになると、日本人のままですが、新しいアイデンティティを持つようになります。これは、何人でも同じです。

キリストにあるアイデンティティについて語る聖書箇所は多数ありますが、その中からここに 10 箇所のみことばを挙げておきます。

悪魔は、キリストにある私たちのアイデンティティを揺るがそうと攻撃してきますから、これらのみことばを頻りに読むのがよいでしょう。

1. コリント第二 5 : 17

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

2. ローマ 8 : 1

8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

3. ヨハネ第一 3 : 1-2

3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

3:2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

4. ヨハネ 15 : 15

15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。

5. ヨハネ 15:16.

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。

6. ローマ 8:15.

8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。

7. ヨハネ 8:34-36.

8:34 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。

8:35 奴隷はいつまでも家にいるものではありません。しかし、息子はいつまでもいます。

8:36 ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。

8. ヘブル 4:16.

4:16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

9. コリント第一 2:16.

2:16 いったい、「だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちには、キリストの心があるのです。

10. マタイ 28:20.

28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

イエス・キリストにあって私たちがどのような者かというアイデンティティは、私たちに励まし、キリストのために人生を生き、聖書に記されたみことばに従おうと思えるようにしてくれるはずで、そして、永遠に目を向けて生きている現状に励ましを見いだせるよう促してくれるはずで、

使徒 11: 1-30.

11:1 さて、使徒たちやユダヤにいる兄弟たちは、異邦人たちも神のみことばを受け入れた、ということを目にした。

11:2 そこで、ペテロがエルサレムに上ったとき、割礼を受けた者たちは、彼を非難して、

11:3 「あなたは割礼のない人々のところに行って、彼らといっしょに食事をした」と言った。

11:4 そこでペテロは口を開いて、事の次第を順序正しく説明して言った。

11:5 「私がヨッパの町で祈っていると、うっとりとして夢ごちになり、幻を見ました。四隅をつり下げられた大きな敷布のような入れ物が天から降りて来て、私のところに届いたのです。

11:6 その中をよく見ると、地の四つ足の獣、野獣、はうもの、空の鳥などが見えました。

11:7 そして、『ペテロ。さあ、ほふって食べなさい』と言う声を聞きました。

11:8 しかし私は、『主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません』と言いました。

11:9 すると、もう一度天から声がして、『神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない』というお答えがありました。

11:10 こんなことが三回あって後、全部の物がまた天へ引き上げられました。

11:11 すると、どうでしょう。ちょうどそのとき、カイザリヤから私のところへ遣わされた三人の人が、私たちのいた家の前に来ていました。

11:12 そして御霊は私に、ためらわずにその人たちといっしょに行くように、と言われました。そこで、この六人の兄弟たちも私に同行して、私たちはその人の家に入って行きました。

11:13 その人が私たちに告げたところによると、彼は御使いを見ましたが、御使いは彼の家の中に立って、『ヨッパに使いをやって、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。

11:14 その人があなたとあなたの家にいるすべての人を救うことばを話してくれます』と言ったということです。

11:15 そこで私が話し始めると、聖霊が、あの最初のとき私たちにお下りになったと同じように、彼らの上にもお下りになったのです。

11:16 私はそのとき、主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは、聖霊によってバプテスマを授けられる』と言われたみことばを思い起こしました。

11:17 こういうわけですから、私たちが主イエス・キリストを信じたとき、神が私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら、どうして私などが神のなさることを妨げることができません。」

11:18 人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。

11:19 さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかった。

11:20 ところが、その中にキプロス人とクレネ人が幾人かいて、アンテオケに来てからはギリシヤ人にも語りかけ、主イエスのことを宣べ伝えた。

11:21 そして、主の御手が彼らとともにあったので、大ぜいの人が信じて主に立ち返った。

11:22 この知らせが、エルサレムにある教会に聞こえたので、彼らはバルナバをアンテオケに派遣した。

11:23 彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保って、常に主にとどまっているようにと励ました。

11:24 彼ははりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大ぜいの人が主に導かれた。

11:25 バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、

11:26 彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。

11:27 そのころ、預言者たちがエルサレムからアンテオケに下って来た。

11:28 その中のひとりでアガボという人が立って、世界中に大ききんが起これると御霊によって預言したが、はたしてそれがクラウデオの治世に起こった。

11:29 そこで、弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。

11:30 彼らはそれを実行して、バルナバとサウロの手によって長老たちに送った。

はじめに

私たちは 10 月 13 日の前回の使徒の説教で使徒 10 章を学びました。

その中で、神の新しい契約が異邦人にまで及んだ史実について読みました。当初、ユダヤ人信徒たちにとって、新しい契約は自分たちだけのもののように思えました。

しかし、五旬節からしばらく経って、部分的にユダヤ人であるサマリヤ人にも新しい契約が及ぶことが神のご計画であると明らかになりました。

そしてついに、異邦人も招き入れられたことで、神のご計画が完成しました。

こうして、神の新しい契約という恵みのご計画にもれる人はいなくなりました。

福音のメッセージは、世界中のすべての人のためのものです。

けれども、ひとつ問題がありました。それが使徒 11 章に記されています。

問題は、ユダヤ人信徒が変化に抵抗したことです。そして、新しい契約がすべての人のためであるという神のご計画を認めようとしなかったことです。

人間は変化を嫌う生き物ですから、ユダヤ人信徒に同情の余地はあります。

実は、私は 40 年近く前にセールスマンをしていましたが、そのときに、非常にためになるトレーニング講座を受講しました。

そこで、売上を伸ばすためのセールステクをいろいろと学びました。

その講師の言葉を今も覚えています。彼は言いました。「私たちの提供する製品はどこの製品よりもすぐれています。客が変化に抵抗するタイプなら、すぐにあきらめなさい。時間を無駄にしないようにしましょう。」

しばらくの間、私はその会社で営業成績トップのセールスマンでしたが、変化に強く抵抗するタイプの顧客を説得して製品を買っていただくことはできませんでした。

人は誰でも、今まで通りで変わらない日常を好みます。

ユダヤ人には、アブラハムの時代からこの個所の時代まで、約 1800 年間も守ってきた歴史があることを忘れてはいけません。

彼らは、古い契約であるモーセの律法を守ってきました。そして、彼らが神の律法に従うなら、神は民を祝福するという約束を守ってくださったのです。

神はまた、神の律法に背く者は罰せられるとも約束なさいました。（申命記 28 章）

このような歴史から、神の新しい契約が異邦人にも及ぶという考えにユダヤ人が理解をなかなか示せなかったのも不思議ではありません。

使徒 11 : 1-18 には、ペテロの証と聖霊の働きとイエスのみことばを思い起こすことをとおして、変化に対する抵抗が克服できたことが記されています。

最後の適用部分では、神のみことばによって明確に示された神のみこころに対し、どうすれば私たち自身が変化に心を開けるか学べることを願います。

今日の個所の状況をしっかり理解するために、今日の個所を 3 つに分けてお話していきます。

1. エルサレムのユダヤ人信徒による抵抗
2. ペテロの証
3. エルサレムのユダヤ人コミュニティ全体による異邦人の受容です。

1. エルサレムの信徒たちによる抵抗 (11 : 1-3)

1-3 節について、原語のギリシャ語を少し調べてみました。そして、教会の歴史がまだ浅かった当時、エルサレムとユダヤにいたユダヤ人クリスチャンは全員が、教会に異邦人クリスチャンを受け入れることに反対していたとみられます。

けれども、その主な懸念事項は、ペテロが汚れた食物に関してユダヤの律法を犯したことでした。

この行為によって、ペテロは「汚れている」とみなされます。

ユダヤの律法では、特定の食べ物を食べることが禁じられています。

これを守るため、彼らは異邦人の家で食事を決してしませんでした。

ユダヤの食べ物に関する律法はレビ記 11 章に記されています。

当時は、人々はこの律法を遵守していました。

神がなぜユダヤ人にこれらの律法を守るように命じられたかについては、諸説あります。

信憑性の高いふたつの理由は、健康面と自制です。

体が健康であれば、学びと奉仕に集中できます。

自制があれば、自制をもって神に従う助けとなります。

ユダヤ人は、食物に関する神の律法を完全に尊重していたので、おそらく今より良い状態だったでしょう。

初代教会のユダヤ人指導者たちが、食物に関するユダヤの律法に背いたペテロに異議を唱えたのは正しいことです。

同時に、ペテロは異邦人の家に入った理由をちゃんと説明することが許されました。

2. ペテロの証と説明 (11 : 4-16)

4-15 節で、ペテロは異邦人とかかわることになった全容を説明します。

この話はすでに学びましたが、重要なポイントをおさらいしておきましょう。

- a) ペテロは神の幻を見た。 幻で、天から大きな布のようなものが降りてくるのをペテロは見ました。その布の中には、4 つ足の動物、野獣、地をほうもの、空の鳥などが見えました。そして、「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい」という声が聞こえました。
- b) ペテロは、それらの動物を殺して食べることを拒んだ。 彼は神に答えて、食物に関するユダヤの律法をずっと守ってきたので、神の掟を破るつもりはないと言いました。
- c) 神が再び天から語られた。 その声は、「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない」と答えました。
- d) 動物の入った布が天から降りてくるのが 3 度繰り返された。 これによって、神が指示されていることが明確になりました。
- e) 神を畏れる異邦人の家に行くように、聖霊がペテロに語られた。

- f) ペテロが異邦人の家に着くと、家の主コルネリオがペテロに話しました。御使いが彼を訪ね、神からのメッセージを携えてやってくる人がいると語ったという内容でした。
- g) そこに集まった人々にペテロが語っていると、聖霊が彼らに臨まれた。
ユダヤ人信徒が五旬節に体験したことと同じだと、ペテロは言いました。つまり、これは正真正銘、神が最初になされたのと同じ方法で確認されたということです。

ペテロは話し終わると、大切なことを付け加えました。

16節で、彼はイエスが以前教えてくださったことを思い出したのです。

ヨハネ 14 : 25-26

14:25 このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

イエスが直接、聖霊の働きについて教えられた内容は、ほとんどがヨハネ 16 : 5-15 に記されています。

ヨハネ 16 : 5-15

16:5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。

16:6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。

16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

16:10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。

16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

16:12 わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。

16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

16:14 御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。

16:15 父が持つておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。

しかし、ペテロがここで思い起こしていたのは、ヨハネ 1 : 33 です。その文脈をふまえて理解できるように、ヨハネ 1 : 29-34 を読みましょう。

ヨハネ 1 : 29-34

1:29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

1:30 私が『私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ』と言ったのは、この方のことです。

1:31 私もこの方を知りませんでした。しかし、この方がイスラエルに明らかにされるために、私は来て、水でバプテスマを受けているのです。」

1:32 またヨハネは証言して言った。「御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられるのを私は見ました。」

1:33 私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを受けさせるために私を遣わされた方が、私に言われました。『御霊がある方の上を下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを受ける方である。』

1:34 私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです。」

この個所の文脈から、イエスがご自身の働きを継続させるために聖霊を遣わされたことと、聖霊によるバプテスマがその働きの証であることがわかります。現代では、ユダヤ人が五旬節で経験したことや、サマリヤ人がサマリヤで経験したこと、そして異邦人が最初に経験したことは、私たちには起こりません。また、起こり得ません。なぜなら、これらの体験には違いがあるからです。それぞれの状況で聖霊は違ったタイミングで下られました。私たちに必要なのは、聖霊が私たちの人生に働いておられるという証です。

ヨハネ 16 : 8-11

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。

16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

16:10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。

16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

イエスの再臨の兆しのひとつは、「欺き」です。(マタイ 24 : 4)

けれども、欺くことのできないことがひとつあります。

聖霊が内住し、人生を支配することなしに、聖い生活は送れません。

ですから、イエスはその生き方によって偽りの教師を見分けることができると教えておられるのです。(マタイ 7 : 15-20)

17 節で、ペテロは聖霊の働きが異邦人の人生に認められたので、それが正真正銘神の働きだと宣言しました。

罪を示されて心から悔い改めた証拠があったのでしょう。

3. 神の新しい契約という恵みに異邦人が受け入れられる。(18 節)

18 節の前半には、「人々はこれを聞いて沈黙し」とあります。

沈黙は、何も生み出さないように見えることもありますが、実際には非常に生産的です。

聖霊が人の内に働く機会を与えるからです。

私たちが静まり、皆が静まると、ひとりひとり自分の思いと向き合います。

ペテロが説明し終えてから、ユダヤ人が神をほめたたえるまでにどれだけの沈黙が続いたのかわかりませんが、彼らの心に聖霊が働いて、ペテロの証を確証づけるのに十分な時間だったのです。

使徒のひとりであるペテロは、聖霊の働きだと納得しました。

けれども、それ以外のユダヤ人も納得する必要があります。

彼らには神のみことばとペテロの証がありました。あとは、心から納得できればよいのです。

沈黙の後、彼らは皆納得し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえました。

「いのちに至る悔い改め」という表現にご注目ください。

使徒 2 : 38

2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。

使徒 3 : 19

3:19 そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。

使徒 : 22

8:22 だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱いた思いが赦されるかもしれません。

悔い改めは、その人自身が心に思い立ってすることではありません。

悔い改めは神からの賜物です。

罪からの悔い改めがなければ、聖霊が働かれたという証拠はありません。

幸い、エルサレムのユダヤ人信徒は、聖霊の働きを認めました。

4. サウロとバルナバが来て、アンテオケが教えの中心地となる。(22-26 節)

19-21 節には、ステパノの殉教後に起こった迫害で離散した信徒たちが、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまで行ったとあります。彼らは神のみことばを告げ知らせましたが、ユダヤ人にだけ伝えていました。ところが、アンテオケで異邦人に伝えた者もいました。その結果、多くの異邦人が信じました。

エルサレムの教会に異邦人が改宗したことが伝わり、彼らは教えを助けるためにバルナバを派遣しました。サウロも神について教える働きを手伝うために呼ばれました。

このふたりは、丸一年間アンテオケに滞在しました。

この時期に、信徒たちは「クリスチャン」と呼ばれるようになりました。

この教会が最初の「インターナショナルチャーチ」です。

27-28 節には、アガボという預言者が集会で立ち上がり、聖霊によって、ローマ帝国全体に大飢きんが起ると預言しました。

歴史上、これはクラウデオの治世に成就しました。

この預言の結果、アンテオケの信徒からお金が集められ、バルナバとサウロがエルサレムにそれを届けました。

11 章からの適用

1. 私たちも皆、おそらく、考え方において「変化に対する抵抗」があります。

私たちは、「安全地帯」にいるほうが居心良く過ごせます。

ほとんどのクリスチャンは、「交わり」という考え方に安住しています。

失われたたましいに手を差し伸べるよう聖霊に促されても、それまでそのようなことをしたことがなければ、おそらく躊躇します。

けれども、今日の個所から学べることは、神が私たちがあらゆる方法で用いたいと願っておられることです。それは、福音をさまざまな人々に伝えるためです。

日曜日は OIC の教会生活にとって大切な日ですし、それが与えられていることを神に感謝しています。

けれども、これはおもに、聖書の教えを受け、賛美をもって神を礼拝し、信徒同士の交わりをする日です。

日曜日に、大阪の町に出て行って、福音を日本人の人々と分かち合う時間はなかなかありません。

先日、OIC の中で、自分の安全地帯を出て、花園ラグビー場に行き、日本人の人たちにトラクトを渡しながらイエスについて話した人たちがいて、とても励まされました。

けれども、私たちは福音のメッセージをもって地域社会に影響をもたらさなければなりません。

この5年間で地域社会に働きかけられた唯一のものは、月一度土曜日に開かれている少人数の子ども向け英語です。

これまで頑張ってきましたし、2回開催された子どもプログラムにはたくさん子どもたちが参加してくれました。その多くは、子ども向け英語の参加者やその友だちなどです。

そして今、その子ども向け英語で英語の先生を募集しています。この子ども向け英語クラブが継続できるように、月に一度自分の安全地帯を出ようと名乗り出てくれる方はいませんか。英語クラブをとおして子どもたちや保護者に伝道するように聖霊から召されていないなら、自分の信仰をどこでどのように分かち合うよう、聖霊はあなたを導いておられるのでしょうか。

それに答えられるのはあなた自身だけです。

ひとつ確かなことは、神が失われたたましいに心を寄せられることです。

私たちが考えなくてはならないのは、「私は神の働きに心を寄せているだろうか」ということです。

2. 教会の歴史の初期から、クリスチャンは困窮している他のクリスチャンを助ける必要性を感じてきました。

困窮している神の民を支援するのは良いことです。

次回の特別献金は、日本国内の被災支援に送られることが決まっていますが、その次の機会には、イスラム教国で衣食住といった基本物資に困窮している信徒たちに送られるべきだと考えます。

ふたつ大きな宣教団体があります。バルナバスファンドとオープン・ドアーズです。その宣教声明は次のとおりです。

オープン・ドアーズは、世界各地で迫害されているクリスチャンに仕えます。私たちは、世界中で迫害を受ける信徒を強めることを目指す団体です。具体的には、コミュニティーの発展、聖書および信仰書配布、指導者訓練および育成、そして祈りと支援の働きです。

バルナバスエイドは、信仰のために差別や圧迫、迫害に苦しむ少数派クリスチャンを支援します。

次回、特別献金を募る際には、このふたつの宣教団体を検討してはどうでしょうか。困窮するクリスチャンの間で世界的に大きな働きをしている団体です。

3. 私たちと同じようでない人がクリスチャンになったときに、その人たちを受け入れること。

私たちは、インターナショナルチャーチですから、自然と、世界各地の人たちを受け入れます。けれども、同じ人種同士でも、学歴や貧富の差などで分断が起こり得ます。

私たちクリスチャンは、文化や背景、育ちの違う人に偏見を持つべきではありません。クリスチャンになる前の過去についても偏見を持つべきではありません。

私たちのアイデンティティは、文化ではなくキリストにあるからです。

すべてのクリスチャンは、イエスを信じる信仰を持つ大きな家族の一員です。

神に助けをいただいて、神の家族を皆愛することができますように。若い人、老いた人、裕福な人、貧しい人、幸せな人、落ち込んだ人、とっつきにくい人、気安い人、気難しい人、愛嬌のある人、皆を愛することができますように。